

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ヤマハ本社22号館新築計画	階数	地上12F
建設地	静岡県浜松市中区中沢町10番1号	構造	S造
用途地域	商業地域、防火指定なし(法22条区)	平均居住人員	3,200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,940 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2022年9月9日
敷地面積	12,734 m ²	作成者	佐藤 怜
建築面積	2,801 m ²	確認日	2022年9月9日
延床面積	22,678 m ²	確認者	畑 伸明



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み 78% (46 kg-CO₂/年・m²)

③ 上記+②以外の 78%

④ 上記+ 78%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
静岡県浜松市に計画された本社オフィスビルである。高い断熱性能や高効率な設備機器の採用、省エネルギー性能に配慮し、環境負荷低減にも大きく貢献した施設である。また非常用発電機や防災備蓄倉庫の確保等によりBCPの面についてもリスクを最小限に抑えられるような取り組みを行っている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・ダブルスキンを採用し、開口部の温熱環境に配慮している。 ・全面的なF☆☆☆☆の材料の採用や、十分な換気量の確保等により、居室の空気環境に配慮している。	・建物コンセプトに基づいた内装デザインとしている。 ・耐用年数が高い内装材や配管材を採用し、建物の耐久性に配慮している。	・新たに植栽を行うことで豊富な緑を確保している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・高効率な設備機器等を導入し、エネルギーの効率的利用に配慮する。	・リサイクル材を積極的に使用しており、非再生資源の使用量の削減を図っている。	・雨水流出抑制対策を整備し、雨水排水負荷を低減している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ヤマハ本社22号館新築計画	階数	地上12F
建設地	静岡県浜松市中区中沢町10番1号	構造	S造
用途地域	商業地域、防火指定なし(法22条区)	平均居住人員	3,200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,940 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2022年9月9日
敷地面積	12,734 m ²	作成者	佐藤 怜
建築面積	2,801 m ²	確認日	2022年9月9日
延床面積	22,678 m ²	確認者	畑 伸明



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

SDG	スコア
3(保健)	2.4
4(教育)	2.5
5(ジェンダー)	2.3
6(水・衛生)	2.1
7(エネルギー)	2.0
8(経済・雇用)	2.3
9(インフラ)	1.9
11(都市)	2.1
12(生産・消費)	2.3
13(気候変動)	2.1
15(陸上資源)	1.4
17(実施手段)	2.3

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
静岡県浜松市に計画された本社オフィスビルである。高い断熱性能や高効率な設備機器の採用、省エネルギー性能に配慮し、環境負荷低減にも大きく貢献した施設である。また非常用発電機や防災備蓄倉庫の確保等によりBCPの面についてもリスクを最小限に抑えられるような取り組みを行っている。		
Q1 室内環境 ・ダブルスキンを採用し、開口部の温熱環境に配慮している。 ・全面的なF☆☆☆☆の材料の採用や、十分な換気量の確保等により、居室の空気環境に配慮している。	Q2 サービス性能 ・建物コンセプトに基づく内装デザインとしている。 ・耐用年数が高い内装材や配管材を採用し、建物の耐久性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) ・新たに植栽を行うことで豊富な緑を確保している。
LR1 エネルギー ・高効率な設備機器等を導入し、エネルギーの効率的利用に配慮する。	LR2 資源・マテリアル ・リサイクル材を積極的に使用しており、非再生資源の使用量の削減を図っている。	LR3 敷地外環境 ・雨水流出抑制対策を整備し、雨水排水負荷を低減している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)ヤマハ本社22号館新築計画	BEE	2	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7	/5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	4.5	/5		よい	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4	/5		ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.2	/5		ふつう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		3.7		
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①ダブルスキンの採用による開口部の温熱環境の向上 ④耐用年数の長い内装仕上げ材を使用している ④空調換気ダクトにガルバリウム鋼板を採用している ④空調・給排水配管の主要な用途上位3種について、2種類以上に判断基準C以上を採用している ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑥ニレ科の植物を中心とした緑陰空間の創出 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦ダブルスキンによる高断熱化 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪給水器具の過半に節水機能のあるものを採用している ⑫免震装置の設置がある ⑫小梁に電炉材を採用している ⑫屋外用品(エクステリア)・吸音板・ビニル系床材にリサイクル材を採用している ⑫ユニット部材として、OAFロアを採用している ⑬ODP=0かつGWP=1以下の発泡剤を用いた断熱材を使用している ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭ライフサイクルCO2排出率が参照値に対して78% 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑫ 1.2.2 ⑫ 2 2.1 ⑬ 2.2 ⑬ 2.3 ⑬ 2.4 ⑬ 2.5 ⑬ 2.6 ⑬ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑫ 雨水利用システム導入の有無 ⑫ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		4.5	
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯基準法に定められた耐震性の50%以上の割増がある ⑯免震装置を導入している ⑰災害時における重要度に応じた運転計画(空調・換気設備) ⑰節水機器の採用。災害時用の水栓設置がある ⑰機械・配管支持方法が耐震クラスS 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		3.4
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱階高4.2m以上 ⑱壁長さ比率0.17 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑ 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		3.2		
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤本社全体で緑の骨格となるグリーンプロムナードと立体的な森を形成 ⑥ニレ科の植物を中心とした緑陰空間の創出 ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑫ ⑮ 	Q-3 1 ⑤ 2 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑤ まちなみ・景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善		